



トキかわら版



環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL : 0259-22-3372

令和8年1月6日・第160号

明けましておめでとうございます。今年はいよいよ本州での放鳥が始まり、トキ野生復帰事業において大きな変化がある1年になります。トキかわら版では、より多くの皆様にトキについて知っていただき、楽しんでもらえるような発信を続けて参ります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



佐渡島内のトキの動き（2025年12月）

ふゆみずたんぼやビオトープ、水路で餌を探す様子が見られています。強風の日にはじっと寒さに耐えて休息しながら、佐渡の厳しい冬の気候の中で懸命に餌を食べて暮らしています。特に、トラクターなどの轍（わだち）に水が溜まっている田んぼや湧水の出る場所など、雪が積もらない浅い水辺は冬を乗り越えるトキにとってとても重要な環境です。



雪が降る中で飛翔する様子



水田で採餌する様子



休息する様子



（速報） トキの羽色変化が始まりました！



1月6日に確認された羽色変化が始まった個体(左)



体をこすりつけている様子(左) 水浴びをしている様子(右)

1月に入り、羽色変化が始まったトキが確認されています。トキの羽色変化は繁殖期に向けて行われるものであり、首のあたりの皮膚から剥がれ落ちる黒い粉状の物質を水浴びの際などに体にこすりつけ、頭から背中を灰色へ変化させます。世界中の鳥の中で、この方法で羽色変化を行うのはトキだけです。

繁殖期に羽色を変化させる理由としては、
①繁殖が可能であることを異性にアピールするため
②巣を作る林の中で目立たなくなるため
と考えられています。

これから繁殖期に向けて灰色がどんどん濃くなっていきます。今の時期しか見られないトキの羽色変化の様子をぜひ観察してみてください。

不定期コーナー トキ深堀リエピソード

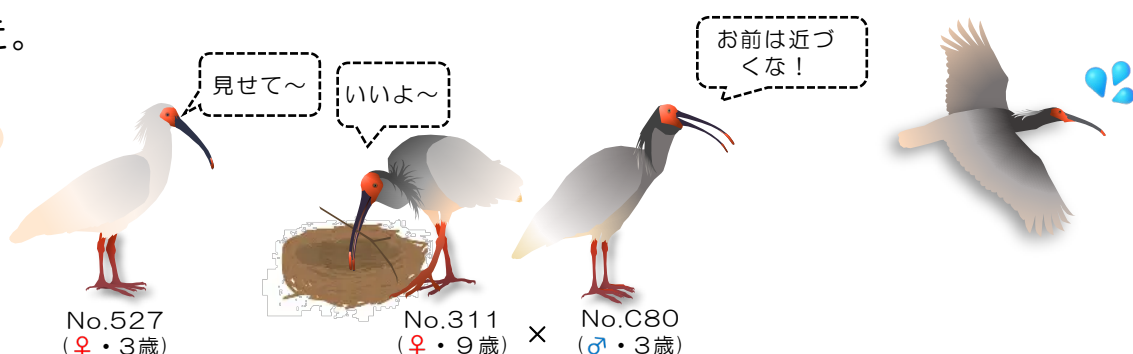
佐渡自然保護官事務所では、野生下トキの動態を把握・推定するために、放鳥個体+野生下で生まれたトキのヒナに足環を装着し、個体識別をしています。このコーナーでは、各個体の行動を追うからこそ見えてくる、トキの面白い行動やトキ同士の関係性について不定期にご紹介します。トキについてさらに知っていただくとともに、親しみを感じていただければと思います！

トキ界のお姫様？ 他のトキたちに可愛がられるNo.527(♀・3歳)

繁殖期に入ると、ペアになっているトキたちはいつもより少し神経質になります。オスもメスも、他のトキが近づくと自分のペア相手を取られないよう、嘴でつついたり羽を大きく羽ばたかせたりして追い払おうとします。

ところが、No.527(♀・3歳)は、とあるコロニーで、どのペアからも追い払われたり攻撃されたりすることなく、平穏に過ごしていました。複数のペアの巣作りを見学してまわったり、ペアが不在中の巣の隣でお留守番をしていたり、他のトキ達はまるでお姫様扱いしているかのようにNo.527を温かく受け入れながら、共に繁殖期を過ごしていました。

とある日の1コマ



初夏になり、No.527が繁殖期を過ごしたコロニーは繁殖結果がとても良く、幼鳥が7羽巣立ちました。今年もいよいよ羽色変化が確認され、繁殖期が始まろうとしています。他の繁殖地でもNo.527のような幸運をもたらすトキが現れ、良い繁殖結果となることを願っています。

トキの情報をお寄せください

繁殖期はトキの行動範囲が広がります。もしかしたら本州のあなたの町にトキがやってくるかもしれません。トキかな?と思ったら、どんな些細なことでも構いませんので、情報をお寄せください。

佐渡島内でも、繁殖期になると人の目の届かないところで過ごすトキが増えます。もしいつもと違うところでトキを見かけたら、ご連絡ください！



トキ目撃情報



トキ目撃情報フリーダイヤル
0120-980-551



トキ関連ニュース

12月9日 野生復帰ステーションで高病原性鳥インフルエンザ発生時の対応訓練を行いました。

12月23日 新潟大学寄附講座で講義を行いました。

トキの
みかた

- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。(ただし、通行の妨げにならないようにしましょう)
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期(2月~6月)は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版



環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL : 0259-22-3372

令和8年2月2日・第161号

最強寒波の到来が全国で話題となる中、佐渡でも雪が降り積もりました。吹雪く中でも時折青空が見える時間があり、トキ達も一瞬の晴れ間を狙って餌場を飛び回っています。

佐渡島内のトキの動き (2026年1月)



繁殖期に向けて準備が進んでいます

繁殖期に向けて様々な変化が見られています。大規模な群れでの行動から、**ペアで行動**する個体も見られるようになり、トキ同士で**くちばしを交差**したり**枝を渡**したりするなど、求愛行動も少しずつ観察されてきています。**羽の灰色も日を追うごとに色濃くなり**、**背中まで広が**ってきています。繁殖期に向けた準備が始まり、トキたちも心なしかソワソワしているようです。



くちばしを交差する様子



着色範囲が広がってきています



水路で採餌する様子

佐渡のトキについての御歌が詠まれました



1月14日(水)に皇居の宮殿松の間で行われた歌会始の儀にて、高円宮妃久子さまが、佐渡の朱鷺(トキ)が明け方に餌場である田んぼへ舞い降りる様子について詠まれました。

「歌会始」は大正時代以前は「歌御会始」と呼ばれ、遅くとも鎌倉時代中期には宮中で行われていた行事とされています。このような歴史と伝統のある皇室行事で佐渡のトキについて詠まれたことは大変喜ばしく、また、より多くの方にトキの美しさを知っていただくきっかけになったのではないかと思います。

豆知識

- ・「朱鷺」は俳句で使われる秋の季語だよ！
- ・佐渡市の俳句季刊誌は「朱鷺」で、現在第66号まで発刊されているよ！



佐渡島

ほのぼの白く明けゆきて
餌場に朱鷺の舞ひ降りきたり

トピック ～もうすぐ繁殖期！トキのアピール行動色々～

羽色変化が進み、求愛行動も見られるようになってきました。トキのアピール方法には様々なものがあり、相手の気を引くために一生懸命です。この時期だからこそ見られる繁殖行動を、ぜひそっと観察してみてください。



【相互羽繕い】

お互いの羽を整え合う行動です。気持ちが良い時は冠羽を逆立てることもあります。



【枝渡し】

枝や木の皮などを渡す行動で、残念ながら相手に受け取ってもらえないこともあります。



【擬交尾】

交尾に似た行動で、ペアのきずなを確かめ合うものです。ペア以外の個体が飛来した際に見せつけることもあります。



【羽根下げ】

とまっている状態で両方の翼を下げ、相手に風切羽を見せる行動です。



【嘴（くちばし）交差】

ペアで嘴を触れ合う行動です。嘴をくわえあって振ることもあります。



（番外編）【追い払い】

求愛行動中に他のトキが近づくと、威嚇して追い払うことがあります。



トキ関連ニュース

- 1月8日 トキガイド連絡協議会の研修会で講演を行いました。
- 1月14日 歌会始の儀にて高円宮妃久子さまが佐渡の朱鷺について詠まれました。
- 1月22日 人・トキの共生の島づくり協議会 生息環境整備部会および観光普及啓発部会が開催されました。
- 2月3日 第13回トキ分散飼育地等連絡会議が開催されます。
- 2月9日 第28回トキ野生復帰検討会が開催されます。
- 2月17日 人・トキの共生の島づくり協議会 総会が開催されます。

お願い

観察中に僕たちの巣を見つけても近くに来ないでね！

こわくて子育てが出来なくなっちゃうよ！



トキの
みかた

- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版



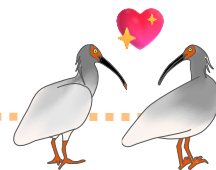
環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL : 0259-22-3372

令和8年3月3日・第162号

真っ白だった大佐渡山地も段々と雪が解けてきました。春の日差しを感じられる日も多くなり、トキ達もすっかり繁殖期モードです。

2025年末の推定個体数を公表しました



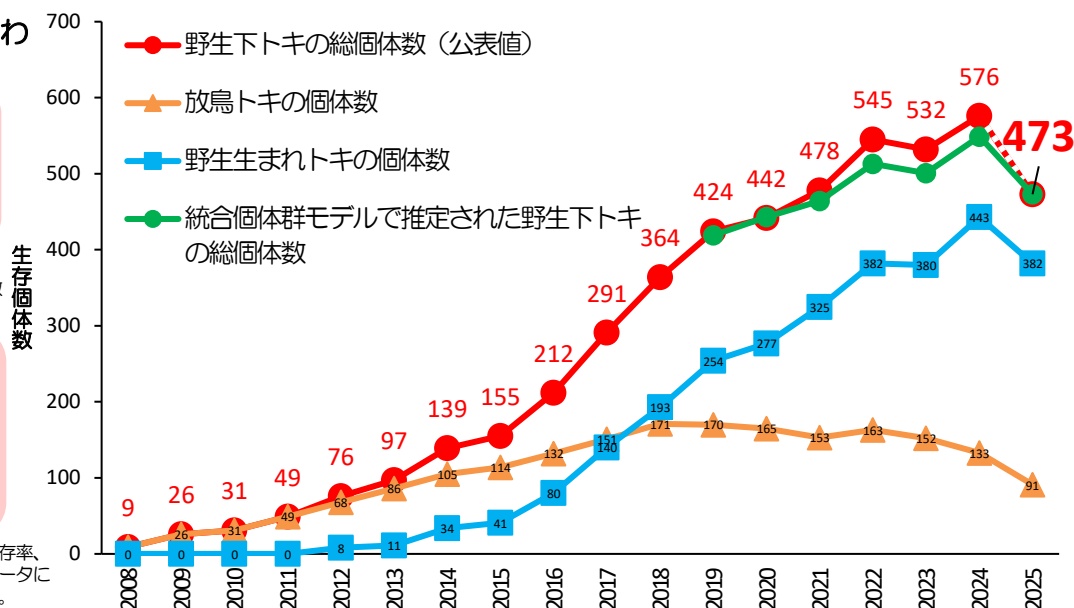
2025年12月末時点における野生下に生息するトキの個体数推定を行いました。その結果、野生下には推定**473羽**(95%信頼区間:435羽～506羽)のトキが生息しているとされました。内訳は、放鳥トキが推定91羽、野生生まれトキが推定382羽（足環がある個体が推定147羽、足環のない個体が推定235羽）となっています。

※今回から個体数の推定方法が変わりました。



昨年度までは、秋放鳥の個体や7月以降に巣立った幼鳥が、12月末時点まで全て生存していることになっており、生息数が過大評価されているとの指摘がありました。

今回からは、足環が装着された個体も含め全ての個体を、生存率、繁殖成績、ねぐら一斉カウント調査などのモニタリングデータに基づいた統合個体群モデルによって推定することとしました。



近年およそ500羽程度を維持していますが、推定個体数としては、昨年度から100羽近く減少しました。その理由として、今回から個体数の推定方法が変わったことに加えて、次の2つが考えられます。

①放鳥羽数が少なかった

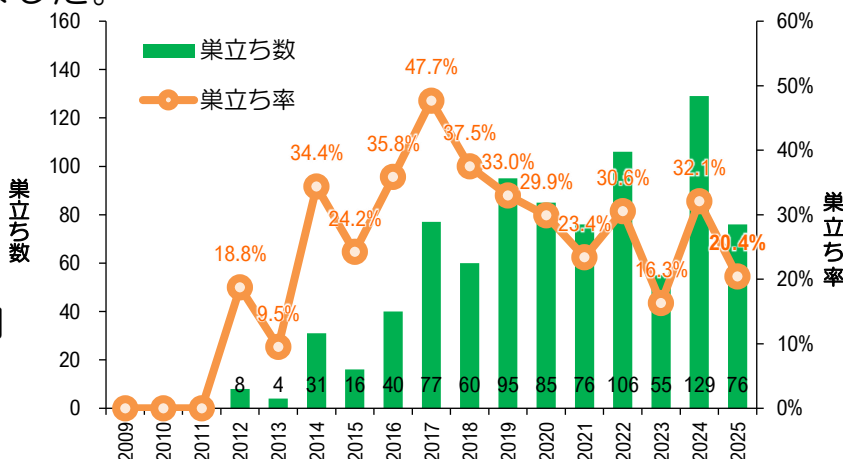
佐渡ではこれまでに毎年30～40羽程度放鳥を行っていたところ、今年度は本州放鳥に向けて放鳥候補個体を確保しておく必要があったことや、順化ケージの改修工事があったため、9羽のみの放鳥となりました。

②巣立ち率が低かった

繁殖期におけるヒナの巣立ち羽数が、2024年は129羽（巣立ち率32.1%）であったのに対し、2025年は76羽（巣立ち率20.4%）と減少しました。巣立ち率が低下した要因としては、5月に強風が吹き、巣立ち間近のヒナが多く死亡してしまったためと考えられます。

今後は環境要因等により個体数は増減しつつも、一定数を維持すると考えられます。引き続きモニタリング調査等を通して、佐渡のトキの個体群の様子を見守ります。

第28回トキ野生復帰検討会の資料はこちら
<https://kanto.env.go.jp/content/000375390.pdf>



トピック ～R9年度出雲市でのトキ放鳥が決定！～



2月9日に開催された第28回トキ野生復帰検討会にて、島根県出雲市におけるトキ野生復帰に向けたこれまでの取組が評価され、出雲市におけるトキの放鳥計画及びモニタリング計画が了承されました。これを受け、令和9年度上半期中を目途に**出雲市**でトキの放鳥を行うことを決定しました。本州でのトキ放鳥は、石川県能登地域（令和8年5月31日（日）の放鳥を予定）に続き、2例目となります。

出雲市は令和4年度に「**トキの野生復帰を目指す里地**」に選定され、放鳥候補地として様々な取組が進められてきました。餌資源量調査では、放鳥開始後の佐渡の状況と比較しても遜色ない餌資源状況であることが確認されました。



放鳥予定地の取組を紹介した看板

速報 ～能登での放鳥に向けた順化訓練開始！～

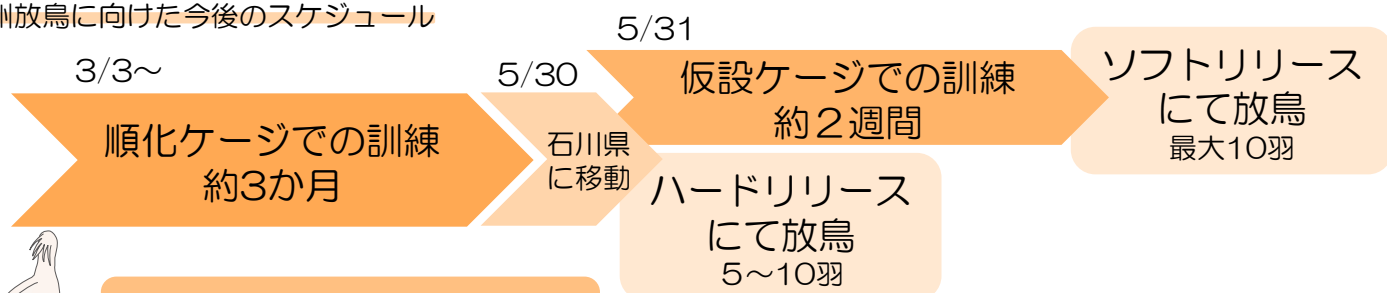
第33回トキ放鳥に向けた順化訓練を3月3日に開始しました。今回の順化訓練は、5月31日に予定されている石川県羽咋市での**本州初放鳥**に向けたものです。訓練個体は20羽（オス12羽、メス8羽）で、1・2歳の若い個体の他に、放鳥地付近に留まることを期待し、13歳、12歳、9歳の高齢オス個体も含んでいます。また、放鳥地である石川県にあるトキ分散飼育地「**いしかわ動物園**」で生まれた3羽も、放鳥候補個体として順化訓練を行います。

訓練個体は、健康診断や、個体識別のための足環・足環型GPSの装着、羽の着色などを行った後に、11時30分頃に順化ケージ内に放されました。これから3か月かけて、順化ケージ内で採餌能力や飛翔力、群れで過ごすための社会性などを身に付けていきます。



訓練個体に足環型GPSを装着している様子

本州放鳥に向けた今後のスケジュール



トキ関連ニュース

- 2月3日 第13回トキ分散飼育地等連絡会議が開催されました。
- 2月9日 第28回トキ野生復帰検討会が開催されました。
- 2月17日 人・トキの共生の島づくり協議会 総会が開催されました。
- 3月3日 本州放鳥に向けた順化訓練（第33回）を開始しました。



順化訓練開始時の羽の着色作業の様子

トキの
みかた

- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～7月）は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版



環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL: 0259-22-3372

令和8年4月1日・第163号

佐渡でもあちこちで梅の花が咲き、すっかり春の訪れを感じる季節となりました。トキ達が巣作りのために枝や草を運ぶ様子も見られており、子育てに向けて準備を進めています。

佐渡島内のトキの動き (2026年3月)



今期初の営巣と抱卵を確認しました！

3月16日(月)に、真野地区・相川地区・佐和田地区において、野生下のトキにおける今期初の営巣を3ペアで確認しました。また、真野地区のNo.448と足環無し個体(NR)のペアについては、抱卵している姿も確認されました。No.448は、昨年一番最初に抱卵を確認した個体で、昨年はそのまま無事に2羽の幼鳥を巣立たせました。今年も子育て上手な父であるNo.448への期待が高まります。

3月26日現在、10ペアの営巣を確認し、そのうち6ペアが抱卵中です。



抱卵するNR(448×NRペア・真野地区)



整巢するNR(A28×NRペア・相川地区)



整巢するNR×NRペア(佐和田地区)

本州でのトキの動き



3月に入り、本州からトキの目撃情報が続々と届いており、中にはペアと思われる2羽で行動している個体も目撃されています。特に繁殖期はペア相手を求めて遠くまで飛ぶと考えられており、放鳥開始後初の本州での野生下トキの繁殖が確認される可能性もあります。本州でのトキの動きについては、皆様からの情報が大変貴重なデータとなっております。目撃した際は遠くから優しく見守っていただくとともに、目撃情報入力フォームより情報をお寄せください。

https://tokihogocenter.site/station/O6f_rep/form.html



←入力フォームはこちら



新潟県村上市で目撃された2羽

トキを見つけたトキは

- ①近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。(ただし、通行の妨げにならないようにしましょう)
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤巣に近付かないようにしましょう。

Check!!



トキのみかた本州版

営巣場所に注意喚起の看板を設置しました



3月27日、新穂地区の神社に、①林内への立ち入り禁止と②境内でのトキの観察・撮影をしないよう呼びかける看板を、人・トキの共生の島づくり協議会、佐渡市、環境省、神社の4者で設置しました。この神社の境内では毎年のようにトキが営巣しているものの、人間の観察圧等による繁殖失敗が続いていると考えられています。

環境省では、放鳥開始時からこれまで営巣場所を非公開にしていたが、今回看板を設置することで、近隣にお住まいの地域の皆さんや観光で佐渡を訪れる方々と一緒に、より優しくトキの繁殖を見守ることが出来ると考えています。また、神社でのお祭りや参拝について制限するものではありませんので、神社には普段通りお越しください。



インターン生から見たトキ野生復帰の現場



3月9日～11日の3日間、短期インターンシップの受け入れを行い、野生下トキのモニタリング・データ入力や、普及啓発物の作成（羽標本の作製）などを行いました。3日間という限られた時間の中で、佐渡自然保護官事務所の仕事をたくさん体験してもらいました。得た学びを体験レポートとしてまとめていただきましたので、ぜひご覧ください！

環境省佐渡自然保護官事務所でお世話になりました大学4年生の篠田実伸（しのださねのぶ）です。小学生の時に佐渡を訪れる機会があり、トキの野生復帰活動を実施していることを知り、縁と興味があったため就業体験でお世話になりました。

3日間という短い期間ではありましたが、首席をはじめ職員の皆様に温かく受け入れてもらったことで、トキに関わる充実した日々を送ることができました。野生復帰には繁殖事業だけでなく、生息環境整備や社会環境整備が推進されることが重要だとわかりました。また、環境省や県の職員だけでなく、ふゆみずたんぼや減農薬農法といった地域住民の方々の積極的な協力が必要であり、職員の方がトキと人の架け橋となるような業務を日々されていることに感銘を受けました。施設における啓発活動を積極的に実施されていることを知ると同時に、モニタリングを通して野生復帰の状況を把握する業務を体験することを通して、トキの日々の観察と地域性の重要性を感じました。生物としてのトキが有名ではありますが、平野に林が点在する環境やビオトープ設置といった地域性を内包したトキの野生復帰活動が一番の魅力だと感じます。

就業体験を通して、環境省の活動が単なるトキの繁殖・啓発事業ではなく、地域の方々や県職員と積極的に協力することが大切だとわかりました。今回の経験を糧に、今後の生活において人とのつながりを大切に、野生動物・希少動物の野生復帰や生息環境の維持活動に関わりたいと考えています。



トキ関連ニュース



3月3日 本州放鳥に向けた順化訓練（第33回）を開始しました。

3月9日～11日 短期インターンシップの受け入れを行いました。

3月12日 行谷小学校トキ学習感謝祭に出席しました。

トキの
みかた

- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～7月）は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版



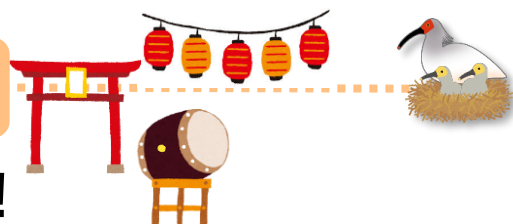
環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL : 0259-22-3372

令和8年5月1日・第164号

4月中は島のあちこちでお祭りの鬼太鼓の音が聞こえていました。トキ達も巣で卵を温めながら、木の上から眺めていたでしょうか。

佐渡島内のトキの動き (2026年4月)



野生下で今期初のふ化を確認しました！

4月15日(水)に、真野地区において、野生下のトキにおける今期初のヒナのふ化を確認しました。今回ふ化を確認したのはNo.448と足環無し個体(NR)のペアで、先月に今期初の営巣・抱卵を確認したペアです。4月30日には当該ペアのヒナ2羽にE79とE80の足環装着も行いました。



親から餌を貰っている様子(448×NRペア・真野地区)

他のペアも、交代しながら抱卵・巣材運び・整巣する様子が見られており、ヒナの誕生に向けて着々と準備を進めているようです。

4月30日現在、55ペアの営巣を確認し、そのうち42ペアが抱卵中、5ペアが育雛中です。



E79の足環を装着したヒナ



巣材を運ぶ様子

！トキの巣には…近づかない



トキの巣に近づいて観察したり、撮影したりすることは、トキにとって大変大きなストレスになります。接近する人間を怖がって親鳥が離巢し、その隙に天敵が卵やヒナを襲ったり、ヒナの体が冷えて弱ったりしてしまいます。人間の観察圧が原因で繁殖に失敗してしまうことは避けたいものです。もし巣を見つけたら、近づかずに、遠くから優しく見守っていただきますようお願いします。

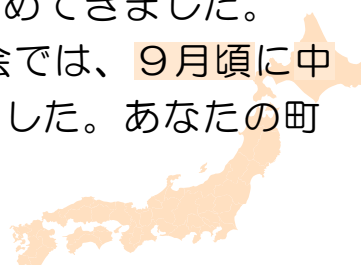
本州放鳥が目前に迫っています！



5月31日、本州で初となるトキ放鳥が、石川県羽咋市の余喜グラウンドゴルフ場で行われます。石川県能登地域は、令和4年8月に「トキの野生復帰を目指す里地」に選定され、これまでトキ放鳥推進モデル地区の設置をはじめとした生息環境整備や、環境教育・普及啓発など、トキとの共生に向けて様々な取り組みを進めてきました。

また、4月27日に行われた能登地域トキ放鳥受け入れ推進協議会では、9月頃に中能登町の春木地区周辺で2回目の放鳥が行われることが決定されました。あなたの町にトキがやってくる日もそう遠くはないかもしれません。

能登地域での放鳥について、詳しくはこちらをcheck！→



飼育下でもたくさんのヒナが誕生しています



佐渡トキ保護センターをはじめとする、トキの飼育施設でも続々とヒナが誕生しています。

飼育下での繁殖と一口で言っても、その実態は様々です。人の手で育てる人工育雛（じんこういくすう）と、親鳥がヒナを育てる自然育雛（しぜんいくすう）があり、自然育雛で育ったトキの方が、野生下への放鳥後の生存率および繁殖成功率がより高いことがわかっています。トキ野生復帰事業において、飼育下で生まれた個体は放鳥候補個体として育成することとしているため、各飼育施設ではより野生下に近い環境での育雛・飼育に積極的に取り組んでいます。

とはいえ、自然育雛もそう簡単ではなく、親がヒナに与える餌の量が少なすぎたり、ヒナがふ化する直前に親が卵を巣の外に落としてしまったりすることもあります。そのような時は飼育員が手助けしたり、人工給餌を行ったりしますが、なるべく人間の介入を減らせるよう、飼育員さん達は日々奮闘しています。

4月28日現在、全国の分散施設では21羽のトキのヒナが誕生しています。



自然育雛中のヒナ（野生復帰ステーション）



人工育雛中のヒナ（佐渡トキ保護センター）

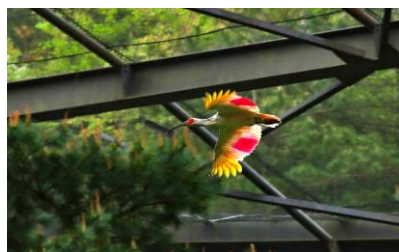
順化訓練也大詰め！



餌を探してとる・長く飛翔する・群れで行動する
段々できるようになってきたよ



順化ケージでの田植えの様子



田植え作業を偵察する訓練個体

3月3日から始まった本州放鳥に向けての順化訓練も、いよいよ大詰めです。これまでの訓練では、人や車の接近、ケージ内での草刈り作業などに慣れさせてきました。4月28日にはケージ内の池で田植え作業を行い、これまでより大人数で長時間の作業を行いました。田植え作業中、トキ達はこちらの様子を伺いつつも、離れた位置のとまり木で羽繕いをしたり、別の木に移動したりするなど落ち着いた様子でした。順調に訓練を終えると、いよいよ本州での初放鳥です。トキが再び能登の天空を舞う日が、すぐそこに迫っています。

トキ関連ニュース



- 4月10日 新穂小学校の開講式に出席しました。
- 4月11日 新穂小学校のトキ学習の授業に講師として参加しました。
- 4月15日 野生下のトキの今期初のヒナのふ化を確認しました。
- 4月28日 順化ケージ内で田植え作業を行いました。



新穂小学校でのトキ学習

トキの みかた

- ① トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ② 地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③ 車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④ 大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤ 繁殖期（2月～7月）は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版



環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL : 0259-22-3372

令和8年6月1日・第165号

徐々に気温が上がり、トビシマカンゾウやイワユリも見ごろを迎える季節となりました。トキの繁殖期も終盤に入り、飼育・野生ともにヒナが誕生しすくすくと育っています。

佐渡島内のトキの動き（2026年5月）



今期初！野生下でヒナが巣立ちました

5月18日（月）に、真野地区において、野生下のトキにおける今期初のヒナの巣立ちを確認しました。今回巣立ちを確認したのはNo.448と足環無し個体（NR）のペアの子で、先月に今期初のふ化を確認し、E79の足環を装着した個体です。同じペアの子であるE80は、この日巣から出ることはなく、一足先に巣立ったきょうだいを見守っていました。



巣から出たE79

他の巣でもヒナがすくすくと成長しています。巣の中で羽を動かし、羽ばたきの練習をしている様子や、巣の中を動き回る様子が見られています。

5月28日現在、35羽のヒナがふ化したことを確認しています。



巣立ちってなあに？



トキでは、ヒナが成長して巣から両足が出ると「巣立ち」なんだよ。

卵からふ化してからおよそ35日後に巣立つよ。

巣立つと呼び名がヒナ→幼鳥に変わるんだ。

つまり、5/18時点では、E79は幼鳥・E80はヒナだったよ。



野生下初！グワングワンの子孫が誕生！

5月1日（金）、野生下で初となるグワングワン系統のヒナの誕生が確認されました。

（詳しくは次ページのトピックを参照）

ふ化後も順調に育ち、5月中旬にはヒナ2羽にE97とE98の足環を装着しました。作業中は伏せてじっとしているヒナが多い中、E97とE98は堂々と立っており、逞しさを感じられました。今後も巣立ちや採餌デビューの様子を見守ります。



巣立ち間近のE97・E98



足環装着時のE97

トピックス ～日本のトキの遺伝的多様性～



遺伝的多様性とは？



同じ種でも遺伝子の違いによる多様な個性があることです。この違いがあることで、病気や環境の変化に適応しやすくなり、種全体の生き残る力が強くなります。人間に例えると、身長・肌の色・顔の形・性格の違いにあたります。お米のコシヒカリ・あきたこまち・ひとめぼれなどの品種の違いも遺伝的多様性の1つです。

現在日本での飼育下及び野生下の全てのトキは、中国から提供されたわずか7羽のファウンダー※（ヨウヨウ・ヤンヤン・メイメイ・イーシュイ・ホワヤン・ロウロウ・グワングワン）の子孫です。遺伝的多様性が低く、環境変化や病気に対して集団としての耐性が低いことが考えられるため、飼育下・野生下ともに遺伝的多様性を高めることが重要となっています。

※飼育個体群の始祖となる繁殖個体



グワングワン

中でも2018年に提供されたファウンダーであるロウロウ・グワングワンの子孫は、飼育下での個体数および放鳥個体数が未だ少ない状況です。野生下では一昨年に初めて繁殖行動が確認されていましたが、残念ながら2年連続で抱卵を中止してしまいました。今年度、野生下初のグワングワン系統のヒナが誕生したことは、日本の野生下におけるトキの遺伝的多様性を高める大きな1歩であり、大変喜ばしいことです。今後もロウロウ・グワングワンの子孫達の繁殖がうまくいきますように。

野生下に生きるグワングワンの孫たち
No. 505（左）とNo.533（右）

E98
（グワングワンのひ孫）

我々ファウンダーや、中国・韓国に生息しているトキを含め、現在生息している全てのトキの祖先は、1981年に中国で発見された、たった7羽のトキだよ。
だから、今のトキは種としての遺伝的多様性が低いよ。

（ファウンダーの写真は佐渡トキ保護センター提供）



ヨウヨウとヤンヤン

祝! ついに本州放鳥が行われました!

5月31日、晴天のもと石川県羽咋市で本州初となるトキの放鳥が行われ、計8羽のトキ達が能登の上空に元気よく羽ばたきました。詳しくはトキかわら版 本州放鳥特別号でお伝えします。

トキ関連ニュース



- 5月18日 野生下のトキで今期初となるヒナの巣立ちを確認しました。
- 5月21日 日本自然環境専門学校の皆さんが野生復帰ステーションを見学しました。
- 5月30日 第33回順化訓練が終了しました。
- 5月31日 本州で初となるトキ放鳥が行われました。

トキの
みかた

- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～7月）は、巣に近付かないようにしましょう。



トキから版 本州放鳥記念号

2026年 7月

5/31、石川県羽咋市で8羽のトキが放鳥され、56年ぶりに能登の空をトキの群れが舞いました。これまで佐渡を中心に続けてこられたトキ野生復帰の取組がいよいよ本州でも本格化する、節目の日です。これを記念し、今回はこれまでのトキ野生復帰のあゆみを振り返ります。

トキのいれまど

～日本産トキの保護と野生絶滅・人工繁殖の取組み～

江戸時代までは日本中に生息していましたが、明治時代以降、狩猟や開発などにより数が減りました。

- 1908年 保護鳥に指定
- 1929年 能登半島でトキ再発見 のり
- 1970年 能登半島で野生下トキ（能里）を捕獲・佐渡に移送
- 1981年 佐渡で野生トキ全5羽捕獲（野生絶滅）
- 1999年 中国から洋洋と友友の贈呈・国内初の人工繁殖が成功（優優誕生）
- 2003年 最後の日本産トキ（キン）の死亡



佐渡のトキ5羽一斉捕獲



野生絶滅前のトキの幼鳥



洋洋と友友

トキのいま

～佐渡での野生復帰の開始・本州への取組み拡大～

佐渡島でのトキ放鳥開始からおよそ20年。

現在500羽程度のトキが佐渡の野生下で暮らしています。

- 2007年 朱鷺と暮らす郷づくり認証制度（認証米）の開始
- 2008年 第1回トキ放鳥
- 2012年 36年ぶりに野生下でヒナが誕生
- 2019年 環境省レッドリストで「野生絶滅」から「絶滅危惧ⅠA類」へ
- 2022年 トキと共生する里地づくり取組地域の選定
- 2026年 環境省レッドリストで「絶滅危惧ⅠA類」から「絶滅危惧ⅠB類」へ
本州でのトキ放鳥開始



第1回トキ放鳥



野生下トキのヒナ誕生

トキのこれから

～トキ保護増殖事業の目標～

野生復帰に向けた取組を着実に進めるため、行程表として「トキ野生復帰ロードマップ2030」があります。以下に本州での主な目標と国内における最終目標を示します。

～2030年頃

- 放鳥したトキが2つ以上の地域で合わせて50羽程度生息
- 繁殖が成功

～2035年頃

- 野生生まれのトキを含む個体群が2つ以上形成
- 本州で100羽程度生息

国内における最終目標

- 成熟個体1000羽以上
- 複数個体群の確立
- 個体群同士の遺伝的交流

～石川県羽咋市で初の本州放鳥～

5/31、トキ放鳥記念式典が行われ、ハードリリース方式で8羽のトキが放鳥されました。式典当日は天候にも恵まれ、8羽とも元気よく能登の高空に羽ばたきました。

2週間後には仮設ケージからのソフトリリース方式で10羽のトキが放鳥され、現在本州には18羽のトキが暮らしています。

★本州放鳥トキの最新の生息情報はこちらをcheck!

→（環境省HP）https://www.env.go.jp/page_00490.html

★本州放鳥トキの目撃情報についてはこちらをcheck!

→（石川県HP）https://www.pref.ishikawa.lg.jp/sizen/toki/mokugeki_2026s.html



トキ放鳥式の様子



トキかわら版



環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL : 0259-22-3372

令和8年7月1日・第166号

梅雨に入り、路肩のアジサイが色鮮やかです。巣立ちした幼鳥も田んぼデビューを果たし、成鳥と一緒に餌をとりはじめています。

佐渡島内のトキの動き（2026年6月）



野生下トキの繁殖状況

繁殖期が終盤に差し掛かり、島内の各巣でヒナが巣立っています。巣立ちしたトキは、まずは営巣林の中で枝から枝へ飛び移り飛翔練習をします。その後、親と一緒に近くの餌場やとまり木に出て、親に餌をもらいつつ、自分の力で餌をとって食べる練習をはじめます。独り立ちしようと頑張っている幼鳥の様子を追ってみましょう。

両津で生まれたE84とE85のきょうだい、巣立ちから2週間後の6/18に、田んぼで親と一緒に採餌しているところを確認しました。営巣林から「ブーブー」と鳴きながら親の後を追いかけて飛翔し、田んぼに降り立ちます。その後時折「ギュルギュル」と鳴いて親に餌ごいをしながらも、2羽で寄り添いながら自らのくちばしで一生懸命虫などをつかまえて食べていました。



(上) 営巣林から飛び立つE84(下) 親と一緒に餌を探すE84 & E85

電柱や民家の屋根にとまる幼鳥も！大人のトキにはあまり見られない行動です。



現在佐渡では、田んぼデビューした幼鳥が見られます。幼鳥の特徴であるオレンジ色の顔、翼の一番外側が黒い幼羽、短いくちばし・冠羽を目印に、ぜひ観察してみてください。

トキを観察するトキは...やさしい見方でトキの味方になろう！

トキは、人が近づくと驚いて飛び立ち、逃げてしまいます。そうすると、トキを見かけてもじっくり観察することができませんし、トキも十分に餌をとれなくなってしまうです。

そこで環境省では、トキ観察時のポイントをまとめた「トキのみかた」を発行しています。次のようなやさしい見方でトキの味方になり、これからも人とトキがともに暮らせるよう、ご協力をお願いします。



こちらからご覧下さい



第34回順化訓練開始！



6/25（木）に順化ケージにて、第34回順化訓練を開始しました。9月頃に石川県中能登町春木地区周辺で予定されている、第2回能登地域トキ放鳥に向けたものです。放鳥羽数は10羽を予定していますが、訓練期間中に問題が生じた場合に備え、12羽（オス6羽、メス6羽）で訓練を行っています。



足環およびGPS機器装着の様子

訓練個体は、健康診断や、個体識別のための足環・足環型GPSの装着、羽の着色などを行った後に、11時頃に順化ケージ内に放されました。これからおよそ3か月かけて、順化ケージ内で採餌能力や飛翔力、群れで過ごすための社会性などを身に付けていきます。



順化ケージに放鳥されるトキ

トピック ～野生下のトキの足環～



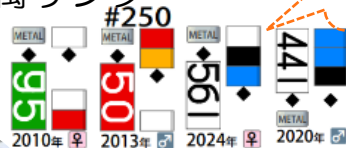
佐渡自然保護官事務所では、放鳥個体だけでなく、野生下で生まれたトキのヒナにも毎年30羽を目標に足環を装着しています。モニタリングで見られたトキを足環で個体識別することで、野生下のトキの生息状況をより正確に把握・推定でき、より良いトキ野生復帰の取組みに生かすことが出来ます。

とっても重要な役割があるトキの足環ですが、実は様々な装着パターンがあり、装着パターンを見るだけでも、ある程度どんな個体なのかがわかるようになっています。

放鳥されたトキ

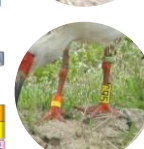
- ・ 緑 赤 白のナンバーリング（数字）
- ・ 3つのカラーリング
- ・ 金属リング

2019年以降、オスは関節上・メスは関節下にナンバーリングを着けています。

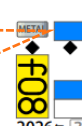


野生生まれのトキ

- ・ 黄色のナンバーリング（アルファベット+数字）
- ・ 3つのカラーリング（関節上1つ、関節下2つ）
- ・ 金属リング



野生下の今年生まれの幼鳥は、右足の関節上に青いカラーリングを着けています。



トキ関連ニュース

- 6月8日 両津吉井小学校のみなさんがトキのテラスを見学しました。
- 6月15日 二宮小学校のみなさんが野生復帰ステーションを見学しました。
- 6月24日 新潟農業・バイオ専門学校のみなさんが野生復帰ステーションを見学しました。
- 6月25日 第34回順化訓練が開始されました。
- 6月26日 日本自然環境専門学校のみなさんが野生復帰ステーションを見学しました。
- 6月27日 第3回自然共生の未来会議に出席しました。



トキの
みかた

- ① トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ② 地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③ 車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④ 大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤ 繁殖期（2月～7月）は、巣に近付かないようにしましょう。

